



活動部門賞 「NPO法人福岡建築ファウンデーションの活動」



同団体は、福岡の優れた近現代建築を広く紹介する2009年にスタートしたツアーイベントを前身としている。多くの継続を望む声を受け、建築を中心とするデザインのプロと建築に関心のある仲間が集い、建築の魅力を社会に広める活動を行うチームとして、2012年にNPO法人化した。福岡に眠る優れた建築とデザインをたくさんの人々に伝えたい。という思いのもと、その活動の範囲はさらに広がり、近現代建築を広く紹介する建築ツアーはもとより、デザインへの興味を惹くレクチャー・ワークショップの開催や誰もが福岡の建築を理解しやすいようアーカイブ化した福岡建築マップの作製、おすすめ建築の紹介やホームページの開設など、優れた建築やデザインと市民を繋ぐ多様な取り組みが続けられている。前身から数えて13年を経過したこの活動は、都市景観の大きな軸となる建築の意義や可能性を広く伝えるものであり、近年では学生をはじめとする若年層が中心となった取り組みも増え、良質なデザインを育む土壌を作り出している。福岡のまちの暮らしを豊かにする活動として、建築やデザインの魅力をさらに高めることを期待したい。

代表者・企画者：NPO法人福岡建築ファウンデーション



市民賞 「梅香る町のランドマークとなる壁画制作」



壁画制作を企画した母体である「梅香る町プロジェクト」は、梅林という町名にちなみ、我が町を梅香る梅いっぱい街にしようとの思いから、2016年にスタートした。同地区では、現在までに100本を超える梅の植樹をはじめ、その剪定や草刈りなどのメンテナンス作業、梅にまつわるイベントの開催など、多様な地域住民が参加するコミュニケーションの輪が広がっている。壁画制作活動は、同プロジェクトのランドマークとなるもので、福岡外環状道路沿いに縦5メートル横14メートルに及ぶ巨大な壁画が登場した。落書きやゴミの投棄で汚れた場所をなんとかしようと、いつも植樹に参加している梅林中学校のPTAの有志によるおやじの会「梅☆星の会」を中心に、中学校の美術部が壁画作成を担当するなど、各々の持ち味を生かした参加が促され、たくさんの人の知恵と汗が結実した作品となっている。笑顔を地域にもう一つ増やしたいという思いは、壁画を見た地域の人々はもちろん、活動に参加した人々においても、地域とのつながりを感じ、このまちのことを誇りに思える共創・共生の文化を生み出している。

代表者：福岡市立梅林中学校 梅☆星の会
企画者：梅香る町プロジェクト
協力者：福岡市立梅林中学校

受賞作品紹介

第29回

福岡のまちもひと

トットコ



福岡市都市景観賞

FUKUOKA URBAN BEAUTIFICATION AWARD

応募総数 225件の中から 選ばれた受賞作品が決定しました!

第29回 福岡市都市景観賞概要

■選考委員：坂井 猛（九州大学 本部 キャンパス計画室 教授・副室長）、柴田 久（福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 教授）、西川 真水（西日本短期大学 緑地環境学科 教授）、黒瀬 武史（九州大学大学院 人間環境学研究院 都市・建築学部 教授）、末廣 香織（九州大学大学院 人間環境学研究院 都市・建築学部 准教授）、池田 美奈子（九州大学大学院 芸術工学研究院 デザインストラテジー部門 准教授）、伊藤 敬生（九州産業大学 芸術学部 ソーシャルデザイン学科 教授）、古賀 桃子（特定非営利活動法人 ふくおかNPOセンター代表）、中村 善輝（福岡市NPO・ボランティア交流センターあすみん センター長）、大場 真一郎（福岡市住宅都市局 理事）

■主催：福岡市（住宅都市局地域まちづくり推進部都市景観室）

■後援：（一社）九州住宅産業協会、（一社）建設コンサルタンツ協会 九州支部、（独）住宅金融支援機構 九州支店、全九州ネオン工業協同組合、（公社）全日本不動産協会 福岡県本部、（独法）都市再生機構 九州支社、福岡県美しいまちづくり協議会、福岡県建設業協同組合、（公社）福岡県建築士会、（一社）福岡県建築士事務所協会、福岡県住宅供給公社、（公社）福岡県造園協会、（公社）福岡県宅地建物取引業協会、福岡県ゆとりある住まいづくり協議会、福岡広告協会、福岡市広告美術業協同組合、福岡市住宅供給公社、（一社）福岡市造園建設業協会、（一社）福岡市土木建設協力会、（公財）福岡市緑のまちづくり協会、福岡設計協同組合、（公社）日本建築家協会 九州支部、（一社）日本建築学会 九州支部、（公社）日本造園学会 九州支部、（特非）日本都市計画家協会 福岡支部、（公社）日本都市計画学会 九州支部、風景デザイン研究会、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会 九州支部

公式サイト「トットコ」

都市景観賞の取組み、受賞作品をご覧ください。

福岡市都市景観賞 トットコ 検索

<https://tottoko.city.fukuoka.lg.jp/>



公式Instagram

これまでの受賞作品などを紹介しています。

Instagramのアプリから、
公式アカウント「福岡市都市景観賞」をフォロー

フォローはこちらから



表彰の種類

◇大賞

◇各部門賞

▼ランドスケープ部門

（まちなみ、公園、身近な広場・緑、道路、橋など）

▼建築部門（住宅、店舗、ホテル、学校、病院など）

（壁面を利用した看板、車両のラッピング広告などの屋外広告物）

▼活動部門

（祭り、行事、地域でのまちづくり活動など）

◇市民賞

（公式サイト「トットコ」上の市民投票で、最も獲得票が多かったもの）

受賞作品展覧会 開催

福岡市役所ロビー

福岡市中央区天神1丁目8-1 1F
8:00～20:00 ※最終日は17:00まで

1/25→31
[火曜] [月曜]

六本松蔦屋書店

福岡市中央区六本松4丁目2-1 2F
9:00～22:00 ※最終日は15:00まで

2/1→8
[火曜] [火曜]

第29回 福岡市都市景観賞

選考総評

福岡市都市景観賞は、福岡のまちの魅力を創りだしている建物や通り、企画や活動に関係している人たちの努力を讃え、広く市民に伝えることを目的として創設された賞であり、市民の推薦・応募に基づき選考します。今年は、225件の応募があり、ランドスケープ、建築、広告、活動の4部門を設けて選考を行いました。

「大濠テラス ～八女茶と日本庭園と。～」は、福岡を代表する県営大濠公園に新設したカフェ店舗であり、木造建築を公園の佇まいに調和させ、気軽に立ち寄ることのできる空間をつくりだすとともに、公園南部の魅力向上に寄与しており、委員全員からの高い評価を得て大賞を贈ることとなりました。つぎに、「県営天神中央公園西中洲エリア」をランドスケープ部門賞として選定しました。天神から中洲を結ぶ主動線を確保しつつ、貴賓館に向かって観客席にもなり得る大階段と、着座できる植栽樹の連続する開放的なオープンスペースを設え、中洲のネオンや那珂川の水面を眺める飲食空間から西中洲の飲食街にまでつながるランドスケープを実現しています。また、「九州産業大学 大楠アリーナ 2020」を建築部門賞として選定しました。国道に面して建てられたアリーナは、新しい地域のランドマークと

なっており、ガラスのカーテンウォールを通して室内とキャンパス相互の見られるの関係を強め、外部の山々まで眺望できるよう配慮されています。さらに、「おしまイムズ THE LAST SHOW 懸垂幕」を広告部門賞として選定しました。ビルの解体前に懸垂幕を用いた他の商業施設とのエールのやりとりが、人々の記憶に残る風景となった点が評価されました。さいごに、「NPO法人 福岡建築ファウンデーションの活動」を活動部門賞として選定しました。福岡の優れた建築とデザインを知ってもらうため、近現代建築ツアーをはじめとする多くの活動に積極的に取り組んでいます。

この他にも、数々の力作の応募があり、最終候補に残った作品を委員で見て回りました。視察直後に開催した最終選考委員会で、採点后に、全委員の意見を出し合って議論したうえで、全員一致による結論を得たものができたとします。今後も、福岡の都市景観に寄与する素晴らしいランドスケープ、建築、広告、活動が数多く生まれることで、都市が発展することを願っています。

福岡市都市景観賞選考委員会委員長 坂井 猛(九州大学教授)

大賞 「大濠テラス ～八女茶と日本庭園と。～」



長年市民の憩いの場として親しまれている大濠公園の南側にできた新しい休憩施設である。お茶をテーマとした和カフェを中心とする木造2階建ての建物は、その存在を主張することなく、公園に面して静かに建っている。大きなガラス窓を通して、美しく光が当たる大濠の景観を屋内のどこからでも一望することができ、特に季候の良い時期には、すべての建具が大きく解放されて、屋内外が一体化する。テイクアウト前の待ち合わせ場所、日本庭園の入り口、2階のテラスといった屋外空間も建物とともにデザインされて、完全に公園の一部として機能している。一見すると切妻という伝統的な木造建築のイメージを守っているために、一般的な建築だと思

かもれない。しかし、奥行きのない細長い敷地の中で、公園側には一切壁を作らずに完全に解放し、屋内空間も開放的に作るのは容易ではない。厚さ60mmの薄いCLTを用いた小スパンのラーメン構造という現代的な材料と構法によってその課題を乗り越え、さらに建物の高さを最小限に抑えて、ヒューマンスケールを守ることにも成功している。家具などのデザインにも、様々な木材を使った工夫が凝らされていて、施設全体に統一感あるイメージを与えている。これまで通り過ぎるだけだった大濠公園の南側に光を当て、日本庭園のエリアを新しい和風のイメージで再構成することによって、新たな公園の魅力を発掘したといえる。



福岡市中央区大濠公園1-9

所有者: クレアプランニング株式会社
設計者: 株式会社リズムデザイン一級建築士事務所
施工者: 株式会社百田工務店

ランドスケープ部門賞 「県営天神中央公園 西中洲エリア」



令和元年8月に再整備を遂げた天神中央公園西中洲エリアは、近年全国で推進されているPark-PFI制度を活用し、天神と中洲を繋ぐ新たな賑わいの場を形成させている。エリア内に設置された「HARENO GARDEN」は透過性の高い設えとともに、明治通りからの視線や歩行者動線を考慮したデザインが施され、旧福岡県公会堂貴賓館の存在感を見事に引き立てている。また那珂川を眺めながら食事を楽しめるテラス席や貴賓館に向けた観客席にもなり得る大階段および屋上など、本エリア特有の景観資源を活かした場の創出がみられる。さらに福博であい橋まで続く石材舗装の敷設と適切な植栽剪定によって、以前の雑然とした場所から、一体的で開放感のある洗練された水辺空間への再生が達成された。貴賓館の裏手側にあたる箇所も南側街区との連続性を重視した整備に結実し、隣接して建つ新築ビルの2階に本エリアを臨める飲食店がオープンするなど、再整備による周辺街区への波及効果も看取される。水辺都市福岡を印象づける質の高いランドスケープの事例として高く評価したい。

福岡市中央区西中洲6

所有者: 福岡県、西日本鉄道株式会社
設計者: 株式会社エスティ環境設計研究所

建築部門賞 「九州産業大学 大楠アリーナ 2020」



東区の北部、国道3号線の沿道に位置する私立大学のアリーナである。福岡市の東の玄関口としての象徴的な景観と、大学キャンパスらしい学生のアクティビティが表出するヒューマンスケールな風景が共存する都市景観が高く評価された。一般にアリーナには、大型の室内空間を生み出すために長大な壁面が生じることが多いが、本施設は、楠の大樹をモチーフとした柱とガラスカーテンウォールによって、内部のアクティビティが可視化し、昼夜それぞれに印象的な景観を生み出している。幹線道路とアリーナの間際に配されたラウンジは、スポーツを介した学生たちの交流を誘発し、無機質になりがちな道路沿いの風景に動きを与える。アリーナ内部からは、楠の原始林が残る立花山を一望でき、特徴的な構造と透過性の高いファサードが、内外の景観資源をつなぐ装置として豊かに機能している。特徴的な構造を美しく浮かび上がらせる照明計画、高低差を巧みに処理し屋内外をシームレスにつなぐアプローチ空間など、美しい景観を支える工夫も見逃せない。今後も、地域に開かれた大学施設が、豊かな福岡の都市景観を生み出す好例が続くことを期待したい。

福岡市東区松香台2丁目3-1

所有者: 学校法人中村産業学園
設計者: 株式会社梓設計 九州支社
施工者: 株式会社竹中工務店 九州支店

広告部門賞 「おしまイムズ THE LAST SHOW 懸垂幕」



32年間の歴史に幕をおろしたイムズ。この広告は、単なる商業施設を超えた文化の発信基地として天神の町に放った最後のメッセージである。福岡の建物などを擬人化した作品で知られる劇団「ギンギラ太陽's」を起用し、周辺の商業施設ひとつひとつ(一人ひとり?)に向かって一言ずつ語りかけるという意表をつ手法は、懸垂幕という現代では珍しくなったフォーマットの新たな可能性をも引き出した。本来、広告とは自らの商品やサービスを宣伝する役割を担うものだが、この広告は、逆に町や他者にエールを送ったという点でも画期的だった。競合ではなく共存するという、他の都市にはない福岡ならではの町のあり方を見事に可視化した広告だ。イムズを通して文化の面白さや深みに導かれたという思い出を語る人は多い。「イムズはおわる。イムズはつづく。」というコピーが象徴するように、懸垂幕に1行ずつ書かれた言葉は、イムズという建物が消えても、人それぞれのイムズへの想いととも思い起こされる永遠の「イムズ」となるだろう。イムズのファサードを長年飾ってきた懸垂幕に浮かび上がったユーモアあふれるセンテンスは、町や人々に対する愛情に満ちたフィナーレとなった。

福岡市中央区天神1丁目7-11

所有者・企画者: 三菱地所プロパティマネジメント株式会社
制作者: 空気株式会社